令和5年度

学校評価結果

美小スポーツデー

公開研究会

美幌町立美幌小学校

目次

1　第１回学校評価（令和5年7月実施）

【児童アンケート】の結果……1
【保護者アンケート】の結果……6
【児童・保護者・教職員アンケート】の結果より……7

2　第2回学校評価（令和3年12月実施）

【児童アンケート】の結果……9
【保護者アンケート】の結果……14
【児童・保護者・教職員アンケート】の結果より……15
保護者アンケート記述欄より……16

学校だより

かしわの葉

美幌町立美幌小学校　第７号

【学校教育目標】
できること　いっぱい　みつけよう
自立する柏っ子
◇やりとおす　◇かんがえる
◇つたえあい　◇ふれあい
◇みとめあい
令和５年　９月２５日　発行
文責　校長　中村　厚志

〒092-0062 網走郡美幌町西2条北4丁目1番地　TEL 0152-73-2019　受付時間 7:40～17:00(通常

令和5年度学校評価アンケート（１回目）の結果から

７月下旬に、本校の保護者・教職員・児童を対象に行った今年度第１回目の学校評価アンケートの結果がまとまりましたので、お知らせいたします。今回のアンケートは、昨年度のアンケート（今年１月実施）を基本としながら、半年間の変化を捉えられるよう実施しました。

児童アンケートについては、全国学力・学習状況調査の児童質問紙における項目に合わせ、学年別により細かく児童の傾向が見えるようにしました。円グラフは学校全体の状況、棒グラフは、低・中・高学年ごとの状況を示しています。学年を追うごとに変化する傾向を示す項目もありますので、ご家庭で保護者の目から見たお子さんの姿と比べ、どのような経験や関わりが必要か、考えるきっかけに活用いただければ幸いです。

なお、保護者の皆様からの回答数は92件でした。昨年度の回答数より減少はしましたが、回答いただいた内容を参考に、今後の指導計画の見直しや指導方法の改善に努めてまいります。

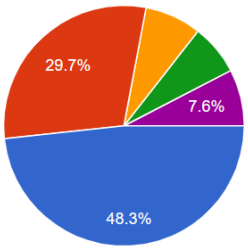
また、記述回答でいただいたご意見は、教職員・学校運営協議会・PTA 役員会で共有し、今後の学校運営の在り方を見直す際の参考にさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

《グラフ・表の見方》
- 円グラフ……対象の回答者全体の状況　単位%
- 表の黄色の塗り潰し部分……本校・全道・全国のそれぞれもっとも高い数値を示す回答
- 保護者アンケート横棒グラフの黄色の塗り潰し部分……上位２つの数値を示す項目

1. 学校評価【児童アンケート】の結果　※全国・全道平均の値は令和5年度全国学力・学習状況調査より

Q１．あなたは、学校に行くのは楽しいと思いますか。

《柏っ子の結果》



	柏っ子	全道平均	全国平均
わからない	7.6	0	0
楽しくない	6.8	5.7	4.7
どちらかといえば楽しくない	7.6	11.5	9.9
どちらかといえば楽しい	29.7	37.2	35.5
楽しい	48.3	45.5	49.8

《学校大好き　柏っ子》

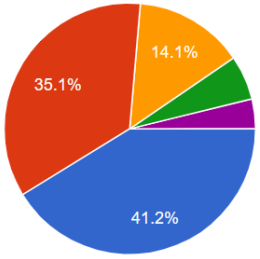
◎「楽しい」は 48.3%（全道 45.5%：全国 49.8%）。⇒全道超え

○「楽しい・どちらかといえば楽しい」の合計は78%（全道 82.7%：全国 85.3%）⇒全道・全国よりやや低い

⇒　学校生活全体の子どもにとっての満足度を測る項目として設定しました。本校では、日常の学級集団づくりをベースに児童の実態に沿った生徒指導を行うとともに、子どもたちの学校生活でもっとも多くの時間を占める授業時間において、「わかる喜び」「できる楽しさ」を味わえる授業づくりを目指してきました。その総合的な結果が、このような数値になって表れていると思われます。今後も「子どもの自立」という大きな目標に沿い、子どもの日常の学習と生活の充実を目指した指導・運営に努めてまいります。

Q2．あなたは、将来の夢や目標を持っていますか。

《柏っ子の結果》



	柏っ子	全道平均	全国平均
考えたことがない・わからない	3.8	0	0
もっていない	5.7	8.9	8.2
あまりもっていない	14.1	10.8	10.4
はっきりとはしないがもっている	35.1	20.6	20.7
はっきりともっている	41.2	59.8	60.8

《「将来の夢や目標」　はっきりとは持てず》

◎「はっきりともっている・はっきりとはしないがもっている」の合計は 76.3%（全道 80.4%・全国 81.5%）⇒全道・全国よりやや低い

●「はっきりともっている」は 41.2%（全道 59.8%：全国 60.8%）⇒全道・全国よりかなり低い

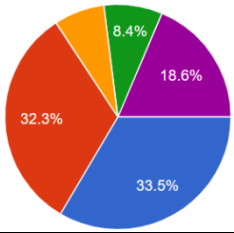
⇒　本校は、全道・全国に比べ、将来の夢や目標がぼんやりしている児童が多いことが明らかになりました。背景として、日常の生活圏が狭く、公共交通機関の利用体験等、社会の仕組みを知り、そこに従事する人に出会ったり憧れをもったりする機会が少ないことや、遊びの質・生活体験など子どものライフスタイルが、自然や社会への興味関心を抱きづらいものになっていることなどが考えられます。学校では「仕事調べ」などの学習も取り入れていますが、自然や社会への窓口となる学校図書館の整備が不十分で、子どもの知的好奇心を喚起したり、自分の興味関心に従って問題解決したりするといった役割が果たせていないことも、環境要因として考えられます。

子ども自身が将来を見通し、夢や目標を持てるようになることは、子どもが自立に向かう上で重要な要素の1つです。また、学習の動機付けとしての意味も大きいといえます。子どもの将来の夢や目標がはっきりすることに影響を与えるものとしては、「疑問に思ったことを自分で深く調べる経験」や「日常的な子ども自身の行動力」、「自己肯定感」や「保護者の肯定的な関わり」、「家族や他者との会話量」などがあると言われます。

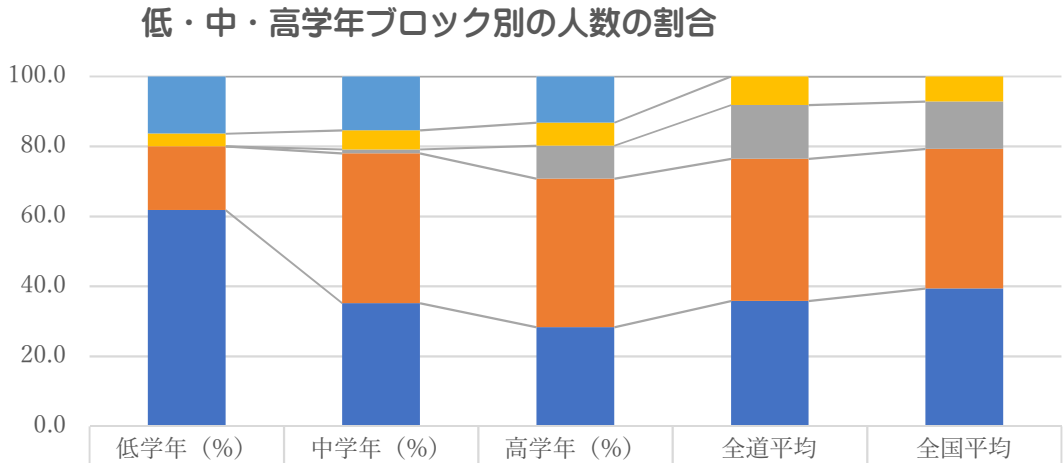
学校の授業においては、疑問に思ったことを自分で調べることができるように学校図書館の整備を進めたり、言語能力をしっかり身につけさせて表現力を高めたりすることが、今後は一層必要になると考えています。一方、家庭においては、子どもの声に耳を傾けて会話量を増やしたり、がんばる子どもの背中を押して応援したりするなど、肯定的な関わり方が大切になります。

Q3．あなたは、自分によいところがあると思いますか。

《柏っ子の結果》



	柏っ子	全道平均	全国平均
わからない	18.6	0	0
ないと思う	8.4	5.9	5.1
どちらかといえばないと思う	7.2	13.0	11.4
どちらかといえばあると思う	32.3	41.9	40.9
あると思う	33.5	39.2	42.6



	低学年（%）	中学年（%）	高学年（%）	全道平均	全国平均
わからない	16.4	15.4	13.2	0.0	0.0
ない	3.6	5.5	6.6	8.2	7.2
どちらかといえばない	0.0	1.1	9.4	15.4	13.5
どちらかといえばある	18.2	42.9	42.5	40.6	39.9
ある	61.8	35.2	28.3	35.8	39.4

《学年が上がるにつれ下降傾向だが…》

◎「ある」は 33.5%（全道 39.2%：全国 42.6%）⇒全道・全国より低い

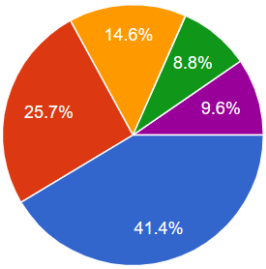
○「ある・どちらかといえばある」の合計は 65.8%（全道 81.1%・全国 83.5%）⇒全道・全国よりかなり低い

⇒　自己肯定感は、学力との相関が見られる項目として注目されている指標です。数値からは、日常的に家族や友達、先生方など周囲の人から自分の努力やがんばりを認められている子どもが多い状況にあると考えられます。学年が上がると自己肯定感が下がるのは、小学生段階における一般的な傾向です。柏っ子も、見事にその傾向に当てはまっています。自己肯定感が下がると自分に自信がもてず、様々なことに立ち向かうエネルギーが不足し、物事に挑戦する意欲が湧いてこなくなってしまうため注意が必要です。

　自己肯定感は、仲間と一緒に切磋琢磨したり、その子に合った適度な困難を大人の適度な関わりにより乗り越えたりしたときに育つと言われます。否定的な言動が多く、自己肯定感の低い子どもは、適切な学びの場所が与えられていなかったり、親が先回りして必要以上に困難を取り除いてしまったりしている可能性があります。学校では、教育相談や「ことばの教室」など、その子にあったアプローチを保護者の方と一緒に考えていきます。

Q4．あなたは、読書は好きですか。

《柏っ子の結果》



	柏っ子	全道平均	全国平均
どちらともいえない	9.6	0	0
きらい	8.8	10.8	10.4
どちらかといえばきらい	14.6	17.7	17.7
どちらかといえば好き	25.7	31.0	32.4
好き	41.4	40.4	39.4

《読書好きの柏っ子　全国超え》

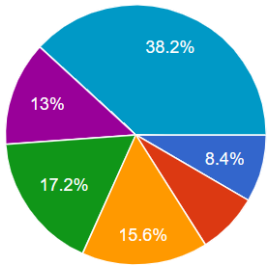
◎「好き」は 41.4%（全道 40.4%：全国 39.4%）全道・全国超え

⇒　本校では、毎日の朝読書や学校図書館ボランティアサークル「がらがらどん」による読み聞かせ、町立図書館の巡回司書によるテーマに沿った本の展示など、読書の楽しみを味わい、読書習慣をつくる取組を進めています。朝読書の時間には、校舎内は静まりかえり、ページをめくる音しかしないと言えるような状況です。

　読書は、新しい知識を得るだけでなく、様々な表現に触れることで言語能力を高め、思考力や判断力の育成にもつながります。全ての思考は言語で編まれますので、コミュニケーション能力を高め、人と関わり、夢の実現にも近付きます。学校としては、巡回司書・地域団体・教育委員会等と連携し、学校図書館の「読書センター」としての機能を充実させるとともに、学習課題の解決を図る場所として「学習センター」「情報センター」としての機能が果たせるよう、計画的に整備を行っていきます。

Q5．あなたは、学校の授業がある日に、１日に何分ぐらい、家で本を読みますか。

《柏っ子の結果》



	柏っ子	全道平均	全国平均
２時間以上	8.4	7.9	7.6
１～２時間未満	7.6	10.6	10.9
３０分～１時間未満	15.6	17.3	18.8
１０～３０分未満	17.2	22.3	22.7
１０分未満	13.0	15.4	15.4
まったく読まない	38.2	26.4	24.5

《好きだけど家では……読まない？　読めない？》

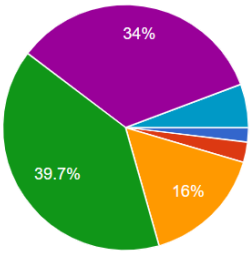
●「まったく読まない」は 38.2%（全道 26.4%・全国 24.5%）。全道・全国より多い

⇒　学校での朝読書は定着している一方で、全道・全国に比べ、非常に低い数値となったのがこの項目です。読書は好きなのに、家ではまったく読まない子どもが多い要因の一つとしては、家に帰ると読書よりもゲームや Youtube 等の動画視聴といった遊びの時間が多くなってしまっていることや、習い事や少年団などで本を読む時間が無くなっていることなどが考えられます。また、家で読める本が少ない（無い）、読んで聞かせてもらう機会が少ない（無い）など、家庭での読書環境も大きく関係します。

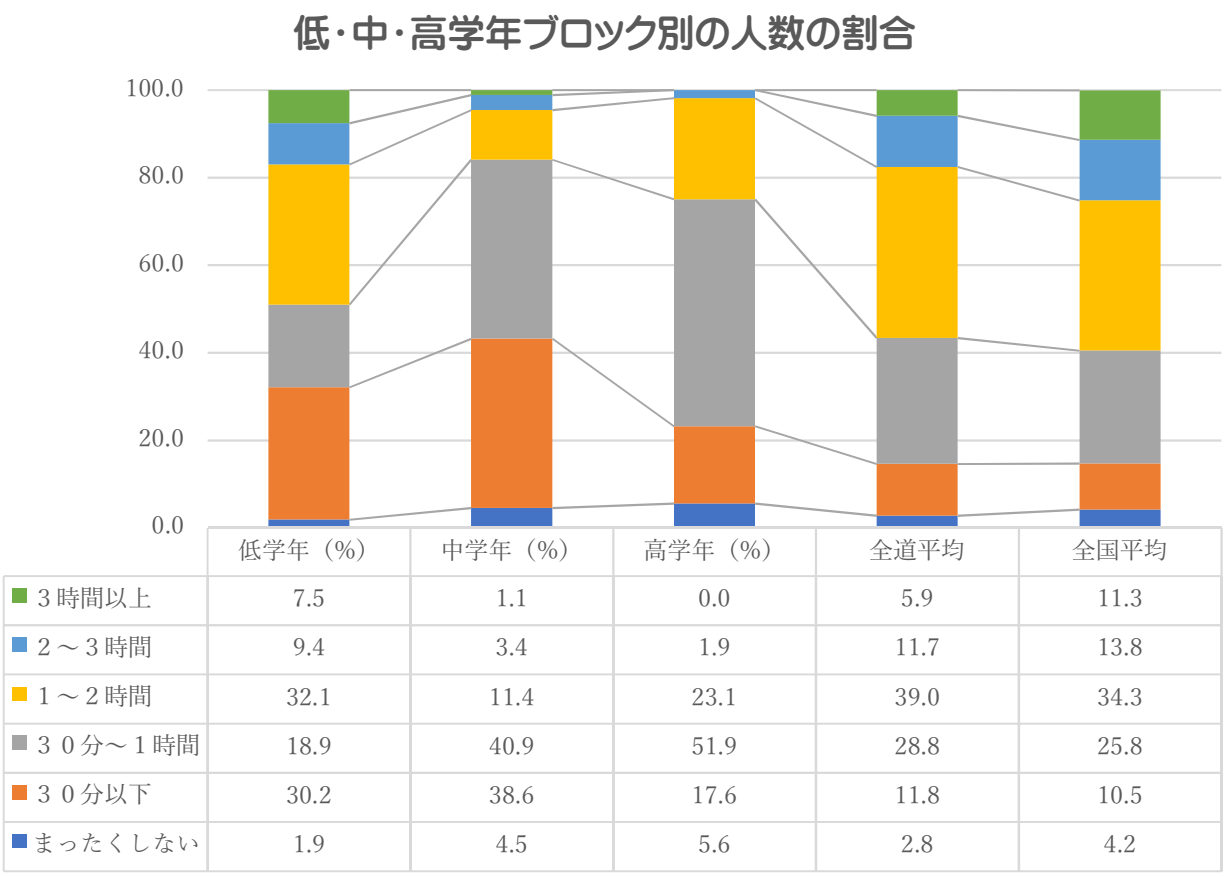
　子どもの生活リズムを整える上でも、家庭におけるゲームや動画視聴に関するルールについて子どもとしっかり話し合い、明確に決めて守らせることが大切です。また、学校としては、子どもが興味をもち、読みたいと思える本に出会ったり、そういった本を気軽に学校図書館から持って帰ったりすることができる環境を整え、子どもの読書量を増やすための取組を継続していきます。

Q6．あなたは家で、一日何分ぐらい家庭学習（宿題＋自学）をしますか。

《柏っ子の結果》



	柏っ子	全道平均	全国平均
３時間以上	1.9	6.2	11.8
２～３時間未満	2.7	11.1	13.8
１～２時間未満	16.0	35.1	31.5
３０分～１時間未満	39.7	30.9	26.9
３０分未満	34.0	13.4	11.4
まったくしない	5.7	3.3	4.6



	低学年（%）	中学年（%）	高学年（%）	全道平均	全国平均
３時間以上	7.5	1.1	0.0	5.9	11.3
２～３時間	9.4	3.4	1.9	11.7	13.8
１～２時間	32.1	11.4	23.1	39.0	34.3
３０分～１時間	18.9	40.9	51.9	28.8	25.8
３０分以下	30.2	38.6	17.6	11.8	10.5
まったくしない	1.9	4.5	5.6	2.8	4.2

《取組時間が年々アップ　まったくしないも年々アップ》

○30 分未満　　…中学年 38.6％⇒高学年 17.6％

○30 分～2 時間未満…中学年 52.3％⇒高学年 75.0％

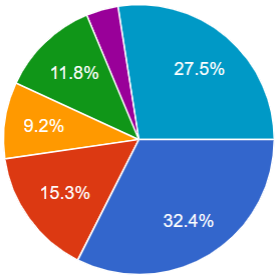
●まったくしない　　…低学年　1.9％⇒中学年　4.5％⇒高学年 5.6％

⇒　学年が上がるにつれて家庭学習の取組時間は長くなってはいるものの、全道や全国に比べると短いというのが、柏っ子の現状です。ただし、学年×10 分という家庭学習時間の目安を考えると、決して短すぎるというわけではありません。また、「まったくしない」という子どもの割合も学年が上がるとともに増える傾向が見られます。少年団等の習い事が忙しくなったり、学習内容が徐々に難しくなったりしていくこと、宿題中心から自学中心へ移り変わることや家庭での指導が徐々に少なくなったりすることなどが要因として考えられます。

小学校における家庭学習で目指すところは、中学校に進学したときに、宿題が無くても自分で予習・復習をし、自分の学習を自分で管理できるようにすることです。今後は、今まで以上に家庭学習の取組が学校の授業と連動し、子ども自身が家庭学習に必要感や有用性を感じることができるよう学校として実態把握や対策の検討をしていきます。

Q7．あなたは、家庭学習（宿題＋自学）をいつ始めることが多いですか。

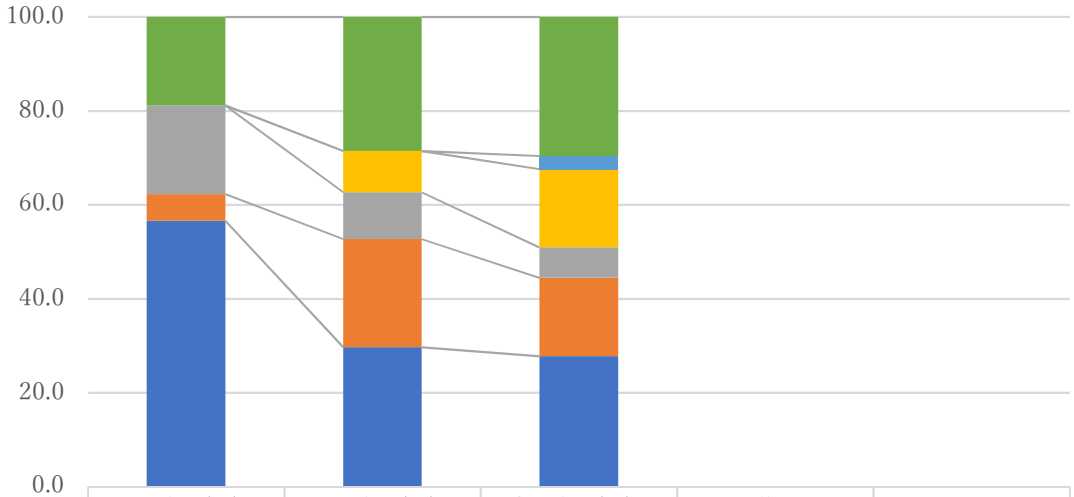
《柏っ子の結果》



	柏っ子	全道平均	全国平均
きまっていない	27.5		
朝、起きてから	3.8		
夜、寝る少し前	11.8		
夕飯のあとすぐ	9.2		
夕飯より前	15.3		
学校から帰ったらすぐ	32.4		

この質問は、全国学力・学習状況調査では実施していないため、データなし。

家庭学習の取り組み時間（ブロック別の人数の割合）



	低学年（%）	中学年（%）	高学年（%）	全道平均	全国平均
きまっていない	18.9	28.6	29.6		
朝、起きてから	0.0	0.0	2.8		
夜、寝る少し前	0.0	8.8	16.7		
夕飯のあとすぐ	18.9	9.9	6.5		
夕飯より前	5.7	23.1	16.7		
学校から帰ったらすぐ	56.6	29.7	27.8		

《学校から帰ったら　まずは家庭学習》

○「取り組み始める時間帯を決めている」児童の合計が約7割

⇒　低学年は、「学校から帰ったらすぐ」に取り組む子どもが多く、まったくしない子も少ない（1.9%）ことから、低学年のうちから家庭学習に取り組むことが習慣化されていると見てとれます。

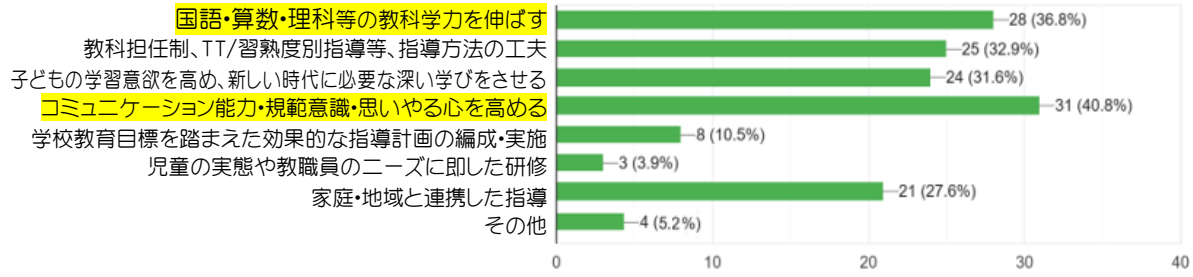
●「きまっていない」児童が約3割

⇒　家庭学習で大切なのは、習慣化を図り、生活リズムの中に学習や読書を取り込むことです。学年が上がるにつれて「夜、寝る少し前」など、取り組む時間帯が遅くなる子どもが多くなり、「きまっていない」という子どもも増えています。放課後の時間が短いことや、習い事などが関係していることが考えられます。今回のアンケートでは明らかになりませんでしたが、「習い事などがあってきまっていない」のか、「ただ単にきまっていない」のかなど、家庭学習が習慣化されない理由があるのならば把握していきたいところです。学校での授業と家庭での自学のリズム感を大切にすることで、学習内容の定着度が違ってきます。同じ時間勉強するなら、身になる努力をさせたいものです。

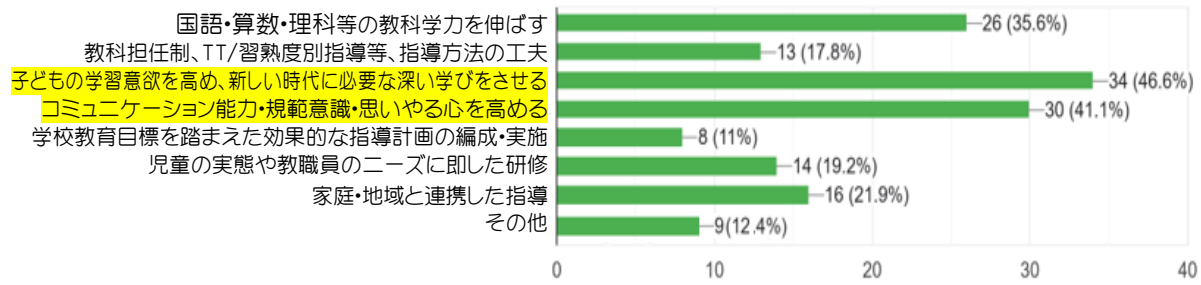
2．学校評価【保護者アンケート】の結果（回答数９１件/P 戸数２３５件）

Q1．本校の指導面に関して

充実しているもの

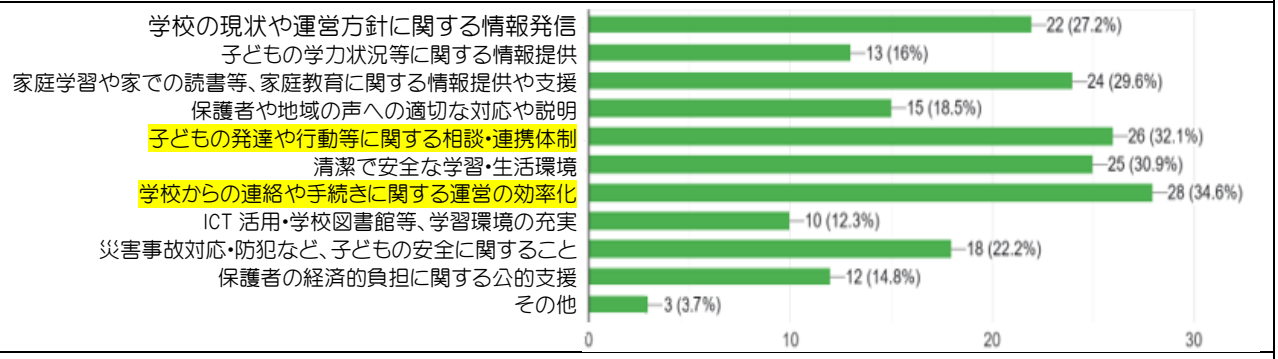


充実させる必要があるもの

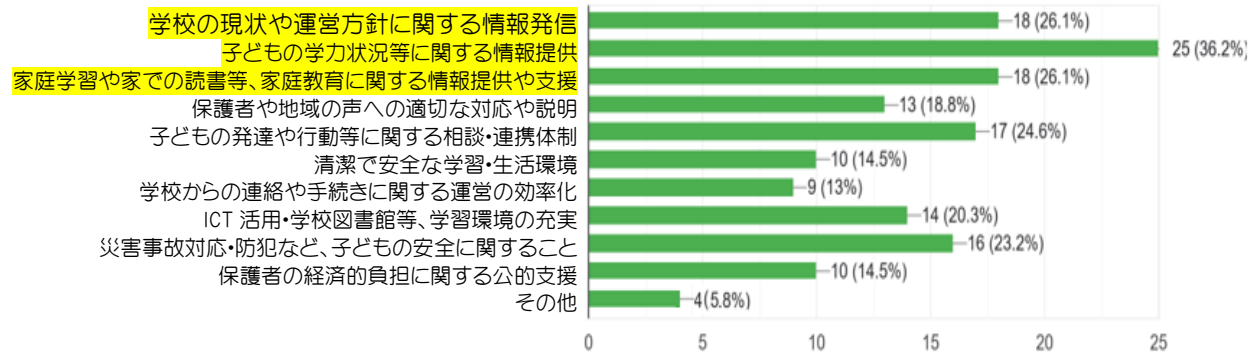


Q2．本校の運営面に関して

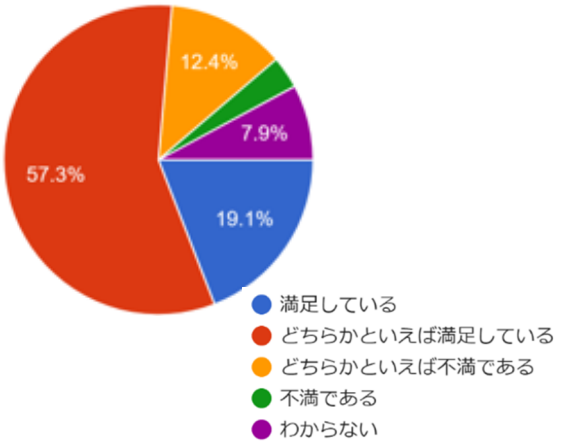
充実しているもの



充実させる必要があるもの



Q3．本校の現状について、保護者の立場から総合的にどのように感じますか。



《新しい時代の学びの構築・子どもの情報共有を目指して》

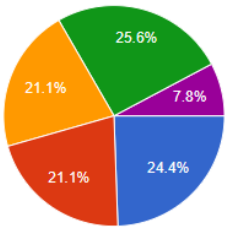
全体の約4分の3（76.4%）の保護者の方に本校の現状を肯定的に受け止めていただいていることがわかります。

指導面に関しては、「子どもの学習意欲を高め、新しい時代に必要な深い学びをさせる」ことに期待が寄せられています。子どもたちの学習意欲を高めたり、学習内容を深めたりすることができるよう、ICT の活用等を含め学習環境を整え、教科学力を定着させていきます。

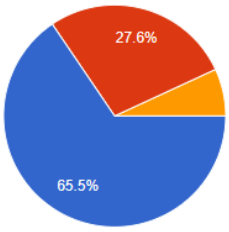
運営面に関しては、「子どもの学力状況等に関する」ことを含め、学校生活の様子等についての情報提供に期待が寄せられています。「情報発信が少ない」とのご意見もいただいていますので、これまで以上に、家庭と学校が情報を共有できるよう、よりよい情報発信のあり方を検討していきます。

3．学校評価【児童・保護者・教職員アンケート】の結果より

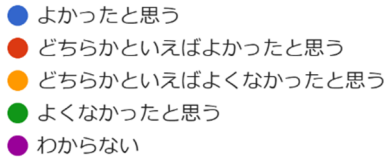
Q1-①.（保護者・教職員）
「美小スポーツデー」の時間や内容は、体育の年間指導計画の範囲内で設定し、感染症の蔓延や悪天候の際、学年ブロック単位で延期可能な計画としました。このことについてどのように思いますか？



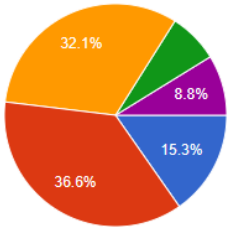
《保護者アンケートの結果》

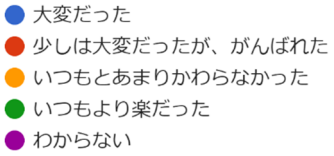


《教職員アンケートの結果》



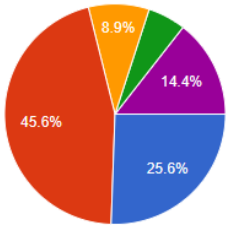
Q1-②.（児童）
「美小スポーツデー」の練習や準備をしていたころ、ほかの勉強や学校生活はたいへんでしたか。



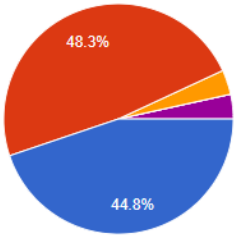


保護者アンケートでは、「美小スポーツデー」の取組内容や実施方法について、「よかった」「よくなかった」との意見がほぼ同数となりました。意見欄からは、競技内容や参加方法について改善意見が見られました。児童アンケートでは、「大変だった」と答えた児童が昨年の 24%から15%へと減少しています。適切な負荷をかけながら、子どもが成長するためのよりよい内容を検討していきます。

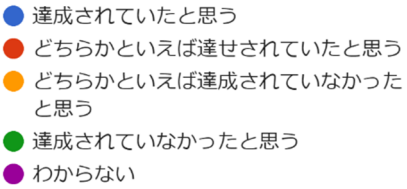
Q2-①.（保護者・教職員）
「美小スポーツデー」は、紅白で勝ち負けを競うのではなく、一人一人の子どもが自分の目標に向かって努力したり、友だちと協力したりすることをねらいに実施しました。このことについて、子どもたちの様子を見て、あなたの印象に近いものを１つ選んでください。



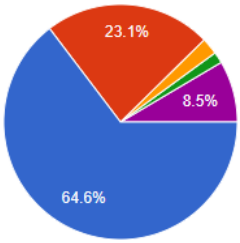
《保護者アンケートの結果》

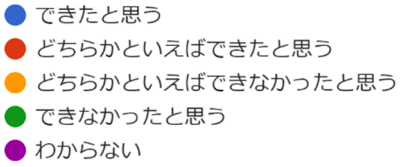


《教職員アンケートの結果》



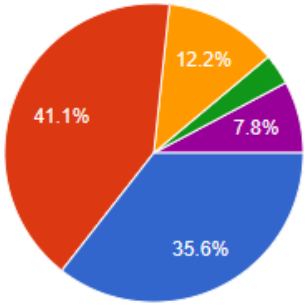
Q2-②.（児童）
「美小スポーツデー」では、自分の目標にむかってがんばったり、友だちと協力したりすることができたと思いますか。



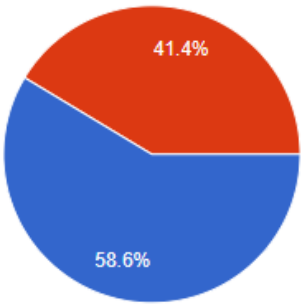


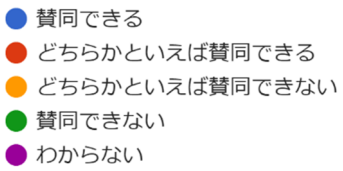
保護者・教職員・児童、3者のすべての数値から、「美小スポーツデー」のねらいは、ほぼ達成されたと見ることができます。次年度も、ねらいとして、「自分の目標に向かって努力すること」や「友だちと協力すること」を基本に、計画を立てていきます。

Q５．本校では、感染症等による子どもたちの学習や生活への影響を最小限に抑えながら、今後の児童数・職員数の減少を踏まえ、行事のあり方や指導計画・指導体制など、本来の目的に照らし、変化に柔軟に対応できる持続可能な学校への転換を目指しています。このことについて、あなたの考えに近いものを１つ選んでください。



《保護者アンケートの結果》





《教職員アンケートの結果》

《持続可能な学校への転換を目指して》

76%以上の保護者、100%の教職員が、持続可能な学校への転換に「賛同できる」「どちらかといえば賛同できる」と答えています。また、「美小スポーツデー」の集計結果から、子どもの日常の学びや生活を大切にし、ねらいに基づいて行われる教育活動について、一定の理解をいただいているものと考えております。

美幌小学校は、そう遠くない未来に訪れる全学年単学級化に対応した学校体制への転換を段階的に進めているところです。「持続可能な教育活動・学校運営は、保護者・地域住民との双方向の情報交換の中で、どのような姿を目指していくか考えていくもの」とのご意見をいただいています。学校運営協議会をはじめ、保護者・地域の皆様の声に耳を傾けながら、経営理念である「Well-being　子どもも、先生も、地域も」の実現に向け、よりよい教育、よりよい社会につながる学校運営に努めてまいります。

※Well-being（ウェルビーイング）…心身と社会的な健康を意味する概念

学校だより
かしわの葉
美幌町立美幌小学校　第13号

【学校教育目標】
できること いっぱい みつけよう
自立する柏っ子
◇やりとおす　◇かんがえる
◇つたえあい　◇ふれあい
◇みとめあい
令和６年　２月２８日　発行
文責　校長　中村　厚志

〒092-0062 網走郡美幌町西2条北4丁目1番地 TEL 0152-73-2019 受付時間 7:40～17:00(通常

令和5年度学校評価アンケート（2回目）の結果から

12月下旬に、本校の保護者・教職員・児童を対象に行った今年度第2回目の学校評価アンケートの結果がまとまりましたので、お知らせいたします。今回のアンケートは、1回目のアンケート（昨年7月実施）を基本とし、約半年間の変化を捉えられるよう実施しました。

児童アンケートについては、前回同様、全国学力・学習状況調査の児童質問紙における項目に合わせ、学年別により細かく児童の傾向が見えるようにしています。円グラフは学校全体の状況、棒グラフは、低・中・高学年ごとの状況を示しています。学年を追うごとに変化する傾向を示す項目もありますので、ご家庭で保護者の目から見たお子さんの姿と比べ、どのような経験や関わりが必要か、考えるきっかけに活用いただければ幸いです。

なお、保護者の皆様からの回答数は 64 件でした。今年度 1 回目の回答数より減少していますが、回答いただいた内容を参考に、今後の指導計画の見直しや指導方法の改善に努めてまいります。

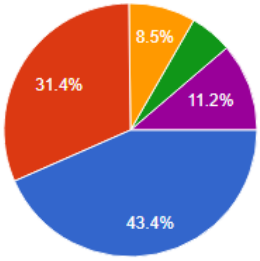
また、記述回答でいただいたご意見は、教職員・学校運営協議会・PTA 役員会で共有し、今後の学校運営の在り方を見直す際の参考にさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

《グラフ・表の見方》
- 円グラフ……対象の回答者全体の状況　単位%
- 表の黄色の塗り潰し部分……本校・全道・全国のそれぞれもっとも高い数値を示す回答
- 保護者アンケート横棒グラフの黄色の塗り潰し部分……2 回目の上位２つの数値を示す項目
- 保護者アンケート横棒グラフの波線 〜〜〜 部分……1 回目の上位２つの数値を示す項目

1. 学校評価【児童アンケート】の結果　※全国・全道平均の値は令和5年度全国学力・学習状況調査より

Q1．あなたは、学校に行くのは楽しいと思いますか。

《柏っ子の結果》



	柏っ子７月	柏っ子12月	全道平均	全国平均
わからない	7.6	11.2	0	0
楽しくない	6.8	5.4	5.7	4.7
どちらかといえば楽しくない	7.6	8.5	11.5	9.9
どちらかといえば楽しい	29.7	31.4	37.2	35.5
楽しい	48.3	43.4	45.5	49.8

《学校大好き　柏っ子　を目指して》

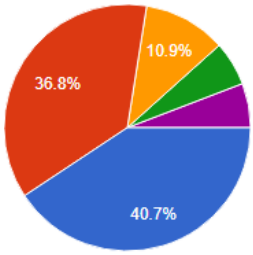
●「楽しい」は43．4%（全道 45.5%：全国 49.8%）。⇒全道よりやや低い

●「楽しい・どちらかといえば楽しい」の合計は74．8%（全道 82.7%：全国 85.3%）⇒全道・全国より低い

⇒　学校生活全体の子どもにとっての満足度を測る項目として設定しています。本校では、日常の学級集団づくりをベースに児童の実態に沿った生徒指導を行うとともに、子どもたちの学校生活でもっとも多くの時間を占める授業時間において、「わかる喜び」「できる楽しさ」を味わえる授業づくりを目指してきました。前回の結果と比較すると、「楽しい・どちらかといえば楽しい」と答えた児童は、ほぼ横ばいとなっています。今後も「子どもの自立」という大きな目標に沿い、子どもの日常の学習と生活の充実を目指した指導・運営に努めてまいります。

Q2．あなたは、将来の夢や目標を持っていますか。

《柏っ子の結果》



	柏っ子７月	柏っ子 12月	全道平均	全国平均
考えたことがない・わからない	3.8	5.8	0	0
もっていない	5.7	5.8	8.9	8.2
あまりもっていない	14.1	10.9	10.8	10.4
はっきりとはしないがもっている	35.1	36.8	20.6	20.7
はっきりともっている	41.2	40.7	59.8	60.8

《「将来の夢や目標」　はっきりとは持てず》

●「はっきりともっている･はっきりとはしないがもっている」の合計は 77.5%（全道 80.4%・全国 81.5%）⇒全道・全国よりやや低い

●「はっきりともっている」は 40.7%（全道 59.8%：全国 60.8%）⇒全道・全国よりかなり低い

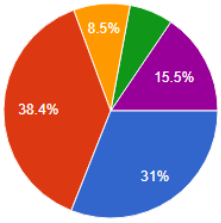
⇒　前回の結果同様、本校は全道・全国に比べ、将来の夢や目標がぼんやりしている児童が多いことが明らかになりました。背景として、日常の生活圏が狭く、公共交通機関の利用体験等、社会の仕組みを知り、そこに従事する人に出会ったり憧れをもったりする機会が少ないことや、遊びの質・生活体験など子どものライフスタイルが、自然や社会への興味関心を抱きづらいものになっていることなどが考えられます。学校では「仕事調べ」などの学習も取り入れていますが、自然や社会への窓口となる学校図書館の整備がまだまだ不十分で、子どもの知的好奇心を喚起したり、自分の興味関心に従って問題解決したりするといった役割が果たせていないことも課題となっています。

　子ども自身が将来を見通し、夢や目標を持てるようになることは、子どもが自立に向かう上で重要な要素の1つです。また、学習の動機付けとしての意味も大きいといえます。子どもの将来の夢や目標がはっきりすることに影響を与えるものとしては、「疑問に思ったことを自分で深く調べる経験」や「日常的な子ども自身の行動力」、「自己肯定感」や「保護者の肯定的な関わり」、「家族や他者との会話量」などがあると言われます。

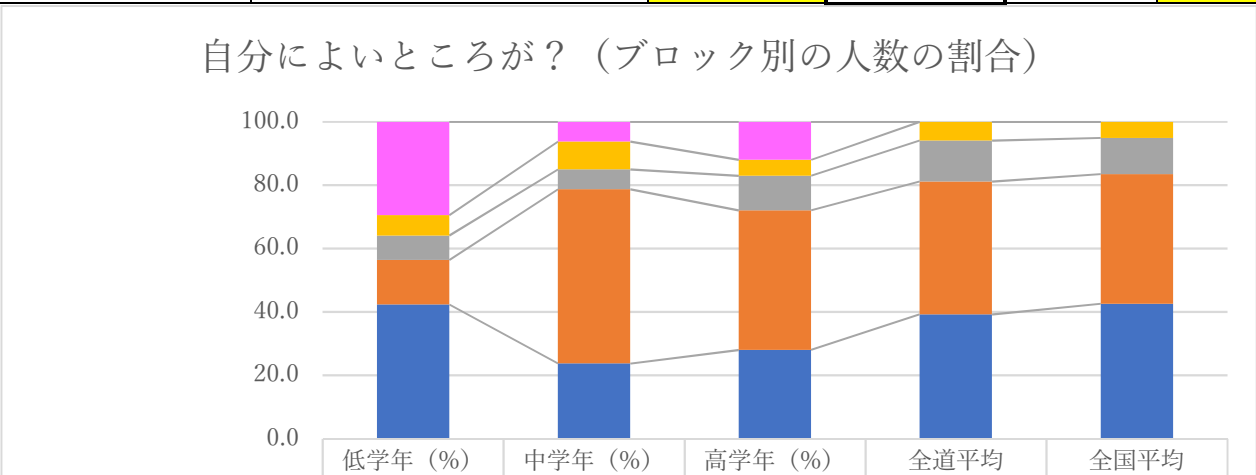
　学校の授業においては、疑問に思ったことを自分で調べることができるように学校図書館の整備を進めたり、言語能力をしっかり身につけさせて表現力を高めたりすることが、今後も必要になると考えています。一方、家庭においては、子どもの声に耳を傾けて会話量を増やしたり、がんばる子どもの背中を押して応援したりするなど、肯定的な関わり方が大切になります。

Q3．あなたは、自分によいところがあると思いますか。

《柏っ子の結果》



	柏っ子７月	柏っ子 12月	全道平均	全国平均
わからない	18.6	15.5	0	0
ないと思う	8.4	6.6	5.9	5.1
どちらかといえばないと思う	7.2	8.5	13.0	11.4
どちらかといえばあると思う	32.3	38.4	41.9	40.9
あると思う	33.5	31.0	39.2	42.6



	低学年（%）	中学年（%）	高学年（%）	全道平均	全国平均
わからない	29.5	6.3	12.0	0.0	0.0
ない	6.4	8.8	5.0	5.9	5.1
どちらかといえばない	7.7	6.3	11.0	13.0	11.4
どちらかといえばある	14.1	55.0	44.0	41.9	40.9
ある	42.3	23.8	28.0	39.2	42.6

《学年が上がるにつれ下降傾向だが…》

●「ある」は 31.0%（全道 39.2%：全国 42.6%）⇒全道・全国より低い

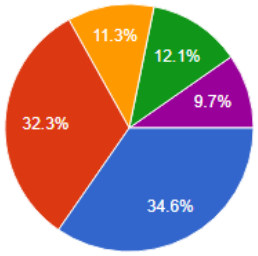
●「ある・どちらかといえばある」の合計は 69.4%（全道 81.1%・全国 83.5%）⇒全道・全国よりかなり低い

⇒　自己肯定感は、学力との相関が見られる項目として注目されている指標です。前回と同じく、数値からは日常的に家族や友達、先生方など周囲の人から自分の努力やがんばりを認められている子どもが多い状況にあると考えられます。学年が上がると自己肯定感が下がるのは、小学生段階における一般的な傾向です。柏っ子もその傾向に当てはまっています。自己肯定感が下がると自分に自信がもてず、様々なことに立ち向かうエネルギーが不足し、物事に挑戦する意欲が湧いてこなくなってしまうため注意が必要です。

　自己肯定感は、仲間と一緒に切磋琢磨したり、その子に合った適度な困難を大人の適度な関わりにより乗り越えたりしたときに育つと言われます。否定的な言動が多く、自己肯定感の低い子どもは、適切な学びの場所が与えられていなかったり、親が先回りして必要以上に困難を取り除いてしまったりしている可能性があります。学校では、教育相談や「ことばの教室」など、その子にあったアプローチを保護者の方と一緒に今後も考えていきます。

Q4．あなたは、読書は好きですか。

《柏っ子の結果》



	柏っ子７月	柏っ子 12月	全道平均	全国平均
どちらともいえない	9.6	9.7	0	0
きらい	8.8	12.1	10.8	10.4
どちらかといえばきらい	14.6	11.3	17.7	17.7
どちらかといえば好き	25.7	32.3	31.0	32.4
好き	41.4	34.6	40.4	39.4

《読書好きの柏っ子へ》

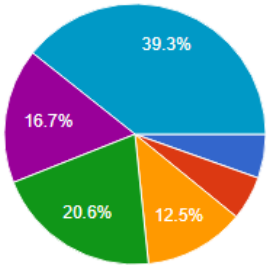
●「好き」は 34.6%（全道 40.4%：全国 39.4%）⇒全道・全国よりやや低い

⇒　本校では、毎日の朝読書や学校図書館ボランティアサークル「がらがらどん」による読み聞かせ、町立図書館の巡回司書によるテーマに沿った本の展示など、読書の楽しみを味わい、読書習慣をつくる取組を進めています。

　読書は、新しい知識を得るだけでなく、様々な表現に触れることで言語能力を高め、思考力や判断力の育成にもつながります。全ての思考は言語で編まれますので、コミュニケーション能力を高め、人と関わり、夢の実現にも近付きます。学校としては、巡回司書・地域団体・教育委員会等と連携し、学校図書館の「読書センター」としての機能を充実させるとともに、学習課題の解決を図る場所として「学習センター」「情報センター」としての機能が果たせるよう、計画的に整備していくことが課題となります。

Q5．あなたは、学校の授業がある日に、１日に何分ぐらい、家で本を読みますか。

《柏っ子の結果》



	柏っ子７月	柏っ子 12月	全道平均	全国平均
２時間以上	8.4	5.4	7.9	7.6
１～２時間未満	7.6	5.4	10.6	10.9
３０分～１時間未満	15.6	12.5	17.3	18.8
１０～３０分未満	17.2	20.6	22.3	22.7
１０分未満	13.0	16.7	15.4	15.4
まったく読まない	38.2	39.3	26.4	24.5

《好きだけど家では……読まない？　読めない？》

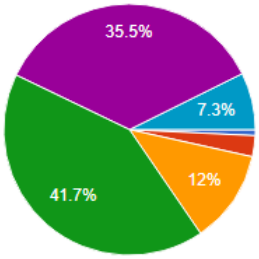
●「まったく読まない」は 39.3%（全道 26.4%・全国 24.5%）。全道・全国より多い

⇒　学校での朝読書は一定の定着が見られる一方で、全道・全国に比べ、非常に低い数値となったのがこの項目です。前回も同様の結果でした。読書は好きなのに、家ではまったく読まない子どもが多い要因の一つとしては、家に帰ると読書よりもゲームや Youtube 等の動画視聴といった遊びの時間が多くなってしまっていることや、習い事や少年団などで本を読む時間が無くなっていることなどが考えられます。また、家で読める本が少ない（無い）、読んで聞かせてもらう機会が少ない（無い）など、家庭での読書環境も大きく関係します。

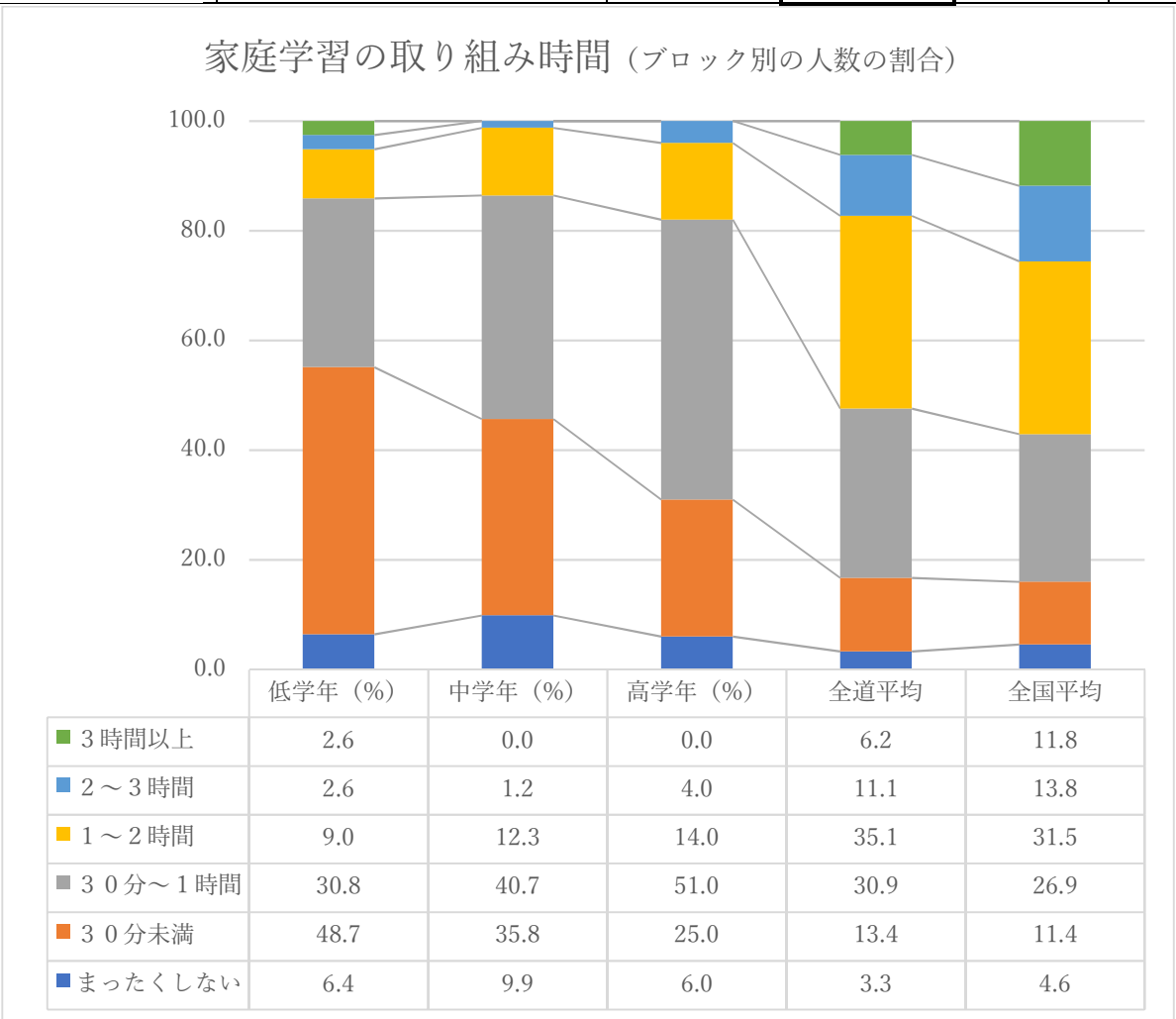
　子どもの生活リズムを整える上でも、家庭におけるゲームや動画視聴に関するルールについて子どもとしっかり話し合い、明確に決めて守らせることが大切です。また、学校としては、子どもが興味をもち、読みたいと思える本に出会ったり、そういった本を気軽に学校図書館から持って帰ったりすることができる環境を整え、子どもの読書量を増やすための取組を継続していきます。

Q6．あなたは家で、一日何分ぐらい家庭学習（宿題＋自学）をしますか。

《柏っ子の結果》



	柏っ子７月	柏っ子 12月	全道平均	全国平均
３時間以上	1.9	0.8	6.2	11.8
２～３時間未満	2.7	2.7	11.1	13.8
１～２時間未満	16.0	12.0	35.1	31.5
３０分～１時間未満	39.7	41.7	30.9	26.9
３０分未満	34.0	35.5	13.4	11.4
まったくしない	5.7	7.3	3.3	4.6



	低学年（%）	中学年（%）	高学年（%）	全道平均	全国平均
３時間以上	2.6	0.0	0.0	6.2	11.8
２～３時間	2.6	1.2	4.0	11.1	13.8
１～２時間	9.0	12.3	14.0	35.1	31.5
３０分～１時間	30.8	40.7	51.0	30.9	26.9
３０分未満	48.7	35.8	25.0	13.4	11.4
まったくしない	6.4	9.9	6.0	3.3	4.6

《取組時間が年々アップ　まったくしないも一定数》

○30 分未満　　…中学年 35.8％⇒高学年 25.0％

○30 分～2 時間未満…中学年 53.0％⇒高学年 65.0％

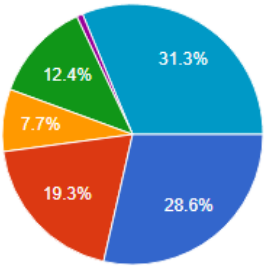
●まったくしない　　…低学年　6.4％⇒中学年　9.9％⇒高学年 6.0％

⇒　学年が上がるにつれて家庭学習の取組時間は長くなってはいるものの、全道や全国に比べると短いというのが、柏っ子の現状です。ただし、学年×10 分という家庭学習時間の目安を考えると、決して短すぎるというわけではありません。また、「まったくしない」という子どもの割合も全学年に一定数見られます。

　小学校における家庭学習で目指すところは、中学校に進学したときに、宿題が無くても自分で予習・復習をし、自分の学習を自分で管理できるようにすることです。今後も、家庭学習の取組が学校の授業と連動し、子ども自身が家庭学習に必要感や有用性を感じることができるよう学校として実態把握や対策の検討をしていきます。

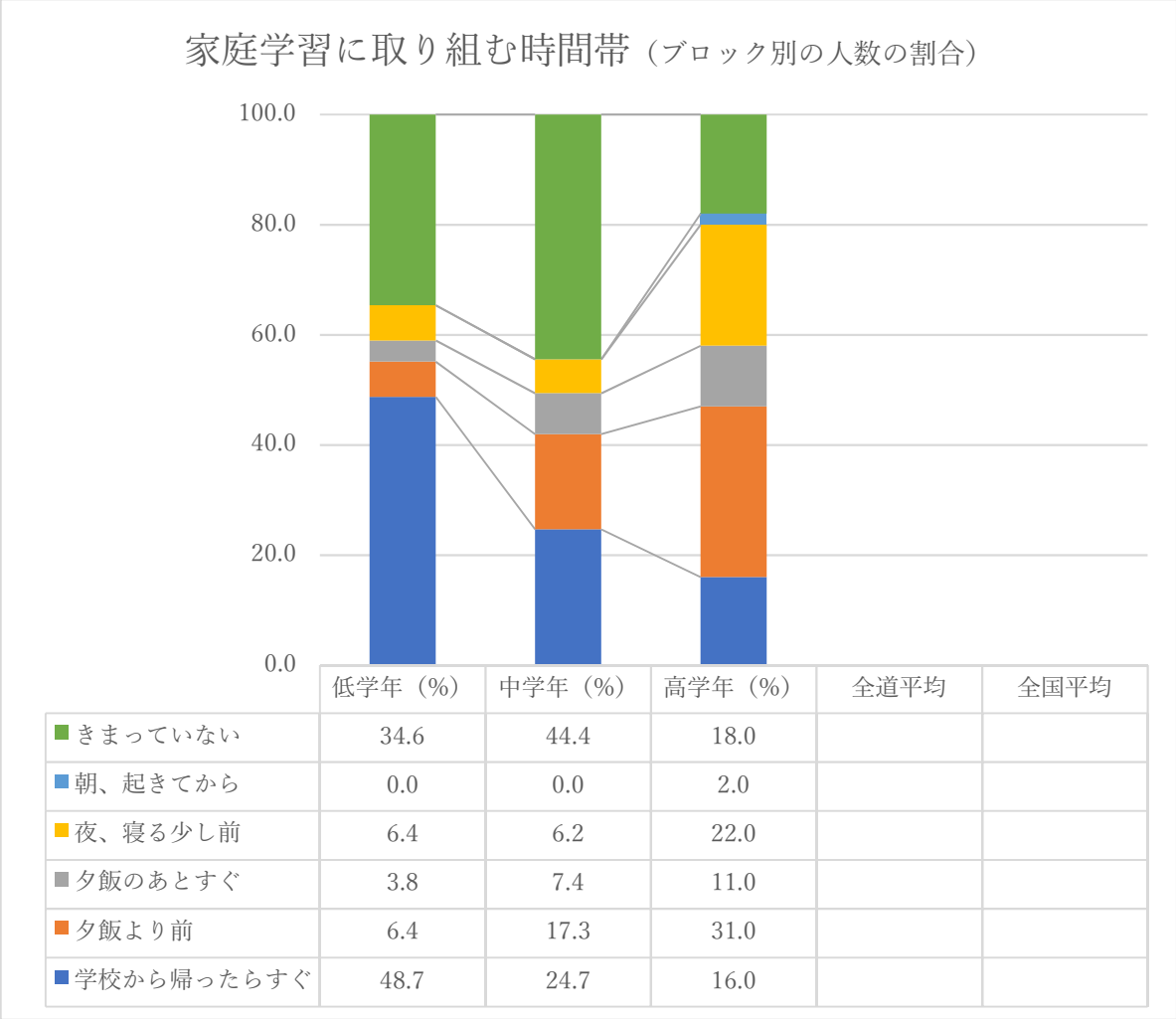
Q7．あなたは、家庭学習（宿題＋自学）をいつ始めることが多いですか。

《柏っ子の結果》



	柏っ子７月	柏っ子12月	全道平均	全国平均
きまっていない	27.5	31.3		
朝、起きてから	3.8	0.8		
夜、寝る少し前	11.8	12.4		
夕飯のあとすぐ	9.2	7.7		
夕飯より前	15.3	19.3		
学校から帰ったらすぐ	32.4	28.6		

この質問は、全国学力・学習状況調査では実施していないため、データなし。



	低学年（%）	中学年（%）	高学年（%）	全道平均	全国平均
きまっていない	34.6	44.4	18.0		
朝、起きてから	0.0	0.0	2.0		
夜、寝る少し前	6.4	6.2	22.0		
夕飯のあとすぐ	3.8	7.4	11.0		
夕飯より前	6.4	17.3	31.0		
学校から帰ったらすぐ	48.7	24.7	16.0		

《学校から帰ったら　まずは家庭学習》

○「取り組み始める時間帯を決めている」児童の合計が約7割

⇒　低学年の「学校から帰ったらすぐ」に取り組む子どもが多いことや、高学年の「取り組む時間はきまっていない」と答えた子どもが少ないことから、家庭学習に取り組むことが習慣化されている児童が多いと見てとれます。

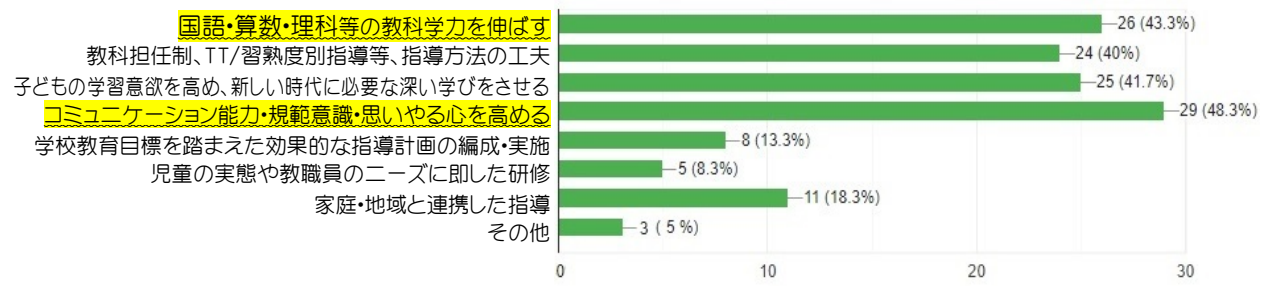
●「きまっていない」児童が約3割

⇒　家庭学習で大切なのは、習慣化を図り、生活リズムの中に学習や読書を取り込むことです。学年が上がるにつれて「夜、寝る少し前」など、取り組む時間帯が遅くなる子どもが多くなり、「きまっていない」という子どもも中学年で多く見られます。放課後の時間が短いことや、習い事などが関係していることが考えられますが、学校での授業と家庭での自学のリズム感を大切にすることで、学習内容の定着度が違ってきますので、学校と家庭とが連携しながら家庭学習の習慣化をより一層図っていくことが大切です。

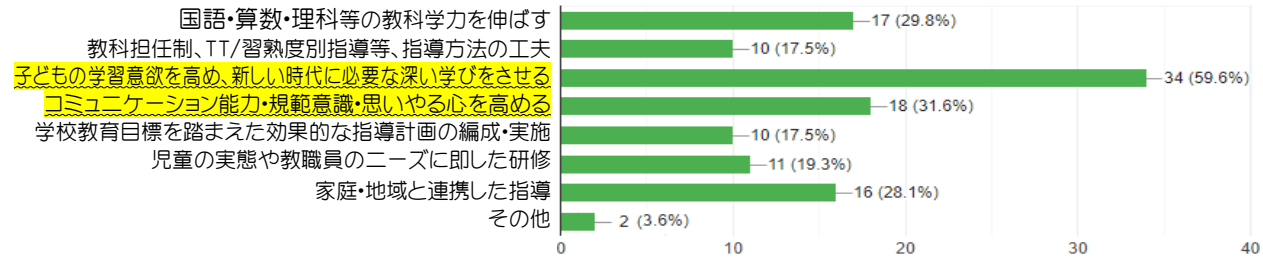
2．学校評価【保護者アンケート】の結果（回答数６４件/Ｐ戸数２３６件）

Ｑ１．本校の指導面に関して

充実しているもの

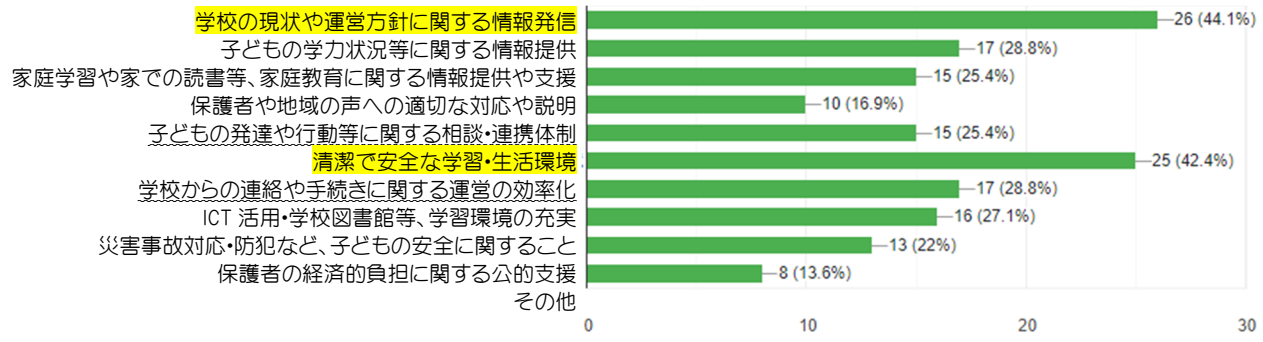


充実させる必要があるもの

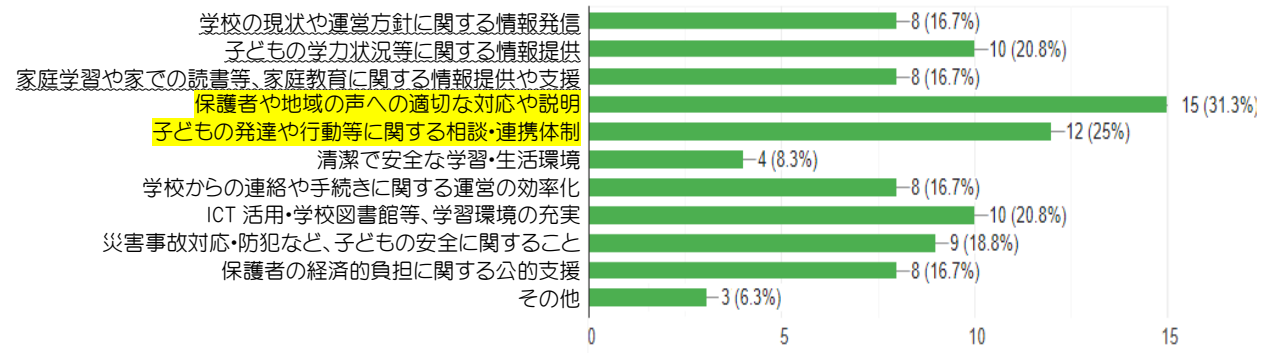


Ｑ２．本校の運営面に関して

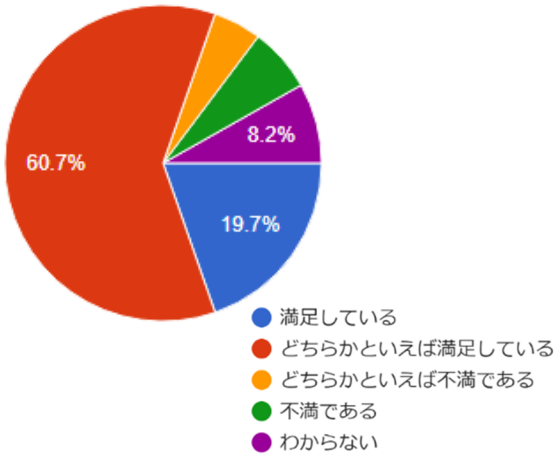
充実しているもの



充実させる必要があるもの



Ｑ３．本校の現状について、保護者の立場から総合的にどのように感じますか。



《新しい時代の学びの構築・わかりやすい情報発信を目指して》

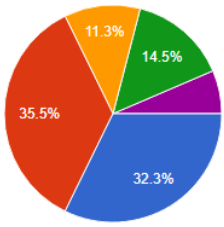
全体の約8割（80.4%）の保護者の方に本校の現状を肯定的に受け止めていただいていることがわかります。

指導面に関しては、1 回目と同様に「子どもの学習意欲を高め、新しい時代に必要な深い学びをさせる」ことに期待が寄せられています。子どもたちの学習意欲を高めたり、学習内容を深めたりすることができるよう、ICT の活用等を含め、引き続き学習環境を整え、教科学力を定着させていきます。

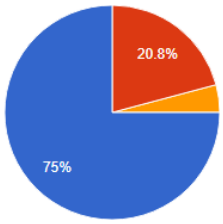
運営面に関しては、「保護者や地域の声への適切な対応や説明」に期待が寄せられています。要望、意見等は、貴重な情報として受け止め、教育活動の改善を図るとともに、学校の方針や現状を分かりやすく情報発信してご理解いただくよう努めてまいります。

３．学校評価【児童・保護者・教職員アンケート】の結果より

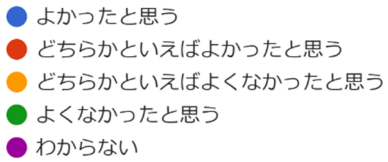
Q１-①．（保護者・教職員）
「学習発表会」の時間や内容は、年間指導計画から発表用に発展させる教科・単元を選び、他の教科等と関連させ、予め計画された授業時間数の中で練習・準備をするようにしました。このことについてどのように思いますか？



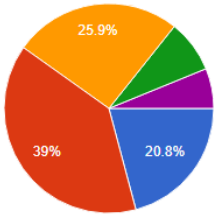
《保護者アンケートの結果》

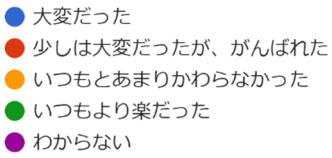


《教職員アンケートの結果》



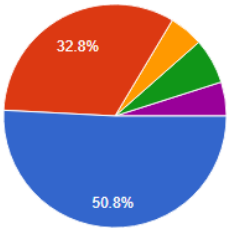
Q１-②．（児童）
「学習発表会」の練習や準備をしていたころ、ほかの勉強や学校生活はたいへんでしたか。



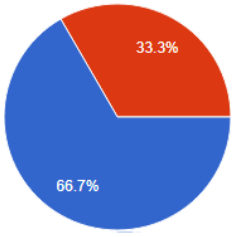


「学習発表会」の取組内容については、保護者・教職員の両者からほぼ理解を得られていると見て取れます。児童アンケートでは、練習や準備の時期にほかの勉強や学校生活が大変だったと感じた児童が20.8%いました。昨年度と比べて 3.3%減少していますが、年度当初から発表する教科・単元等の見通しをもち、日常の学習や生活に大きな影響がないように留意するとともに、今後も経年変化を見て、実施方法や内容の改善を図ります。

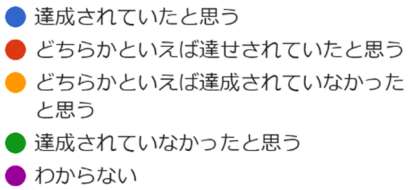
Q２-①．（保護者・教職員）
「学習発表会」は、日頃の学習の成果を発表する場とし、取組の過程で一人一人の子どもが自分の目標に向かって努力したり、友だちと協力したりすることをねらいに実施しました。このことについて、どのように思いますか。あなたの印象に近いものを１つ選んでください。



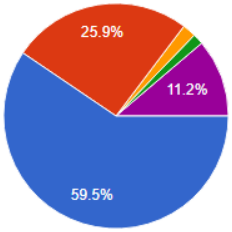
《保護者アンケートの結果》

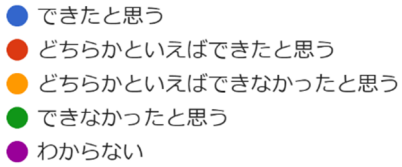


《教職員アンケートの結果》



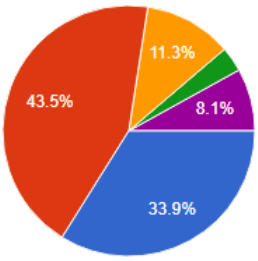
Q２-②．（児童）
「学習発表会」では、学習を深めたり、友だちと協力したりすることができたと思いますか。



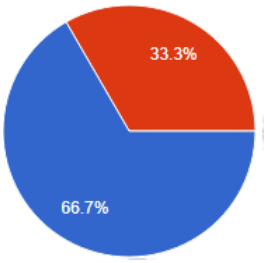


保護者・教職員・児童、3者のすべての数値から、「学習発表会」のねらいは達成されたと見ることができます。次年度も引き続き学習の成果を発表する場とし、「自分の目標に向かって努力すること」や「友だちと協力すること」をねらいとして計画を立てていきます。

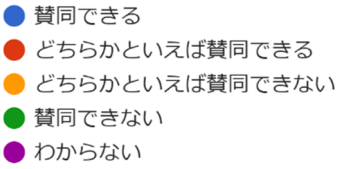
Q3．本校では、感染症等による子どもたちの学習や生活への影響を最小限に抑えながら、今後の児童数・職員数の減少を踏まえ、行事のあり方や指導計画・指導体制など、本来の目的に照らし、変化に柔軟に対応できる持続可能な学校への転換を目指しています。このことについて、あなたの考えに近いものを１つ選んでください。



《保護者アンケートの結果》



《教職員アンケートの結果》



《子ども・先生・地域　すべてのウェルビーイング（Well-being）の実現を目指して》

１回目同様、77%以上の保護者、100%の教職員が、持続可能な学校への転換に「賛同できる」「どちらかといえば賛同できる」と答えています。また、「学習発表会」の集計結果から、子どもの日常の学びや生活を大切にし、ねらいに基づいて行われる教育活動について、一定の理解をいただいているものと考えております。

美幌小学校は、そう遠くない未来に訪れる全学年単学級化に対応した学校体制への転換を段階的に進めています。今年度の経営理念のキーワードは「ウェルビーイング（Well-being）」です。この言葉は、「良好な状態」「心身ともに健康で、持続的に幸福な状態」という意味です。学校においては、子どもたちのウェルビーイングの実現をめざし、学習者が主体となる教育の転換が問われています。子どもたちが毎日学校に行きたい、先生がこの学校で働きたい、そして保護者、地域へもウェルビーイングの考えが広がり、多くの人に新しい時代の教育のあり方を応援していただけるよう学校運営協議会をはじめ、保護者や地域の声への適切な対応や説明を行いながら、「Well-being　子どもも、先生も、地域も」の実現に向け、学校運営に努めてまいります。

４．保護者アンケート記述欄より（一部抜粋）

通常学級の先生も発達障がいについての研修をもっと深め、授業改善に活かしてほしい。

今年１月に、美幌療育病院の作業療法士をお招きし、「発達障がいについて」お話をしていただき、教職員全員で傾聴し、学びを深める機会を設けています。今後も学習の機会を設け、特性を持つ子どもたちの理解に努めてまいります。

高学年になってからネット安全教室がありますが、今は低学年から教えるのが必要な時代かと思います。親としても勉強になるので。

本校では、今年度、6月の高学年参観日において、保護者の皆様と一緒にご参観いただきながらネット安全教室を実施いたしました。ご指摘のように、インターネット利用開始は低年齢化しています。安全上、早い段階でこの学習に触れることが大切と考え、次年度につきましては、同じく6月の参観日において、3,4年生を対象にネット安全教室を行う予定です。対象学年の保護者の皆様の参加をお願いいたします。

冬季の玄関の解錠時間の見直しをして欲しいと思います。各ご家庭の都合により登校してると思いますが、玄関前でたくさんの児童が凍えて寒がってるのは、寒さに弱い子ども達にとって身体的侵襲だと思います。（後略）

玄関の解錠時間につきましては、7:45としております。教職員の勤務時間は8:00からとなっており、それ以前の時間については、管理職等の一部職員の対応となります。早い登校となると、けが等への対応が難しくなり、安全のために現在の時間を設定していますので、ご理解願います。また、早く登校しすぎないようご協力をお願いいたします。なお、冬期間など、内玄関の前で待機することが可能になっています。

朝７時半を過ぎてからのお知らせ（ミサイルの時）では遅く、既に学校に向かってしまったため、もっと早い判断をしてほしい。

できるだけ迅速に対応するよう努めてまいります。また、登下校時に Ｊアラート等が発出される場合もありますので、「建物の中などに避難する」「地面に伏せて頭部を守る」など基本的な対応を、年度当初に再確認していきます。

※その他、スポーツデーや学習発表会などに関し、たくさんのご意見をいただいています。いただいたご意見を参考にし、教育内容の改善・充実を図ってまいります。ありがとうございました。